

000012012 年 11 月 20 日朝刊 2 総合00200576 文字

(ひと) **横田カーター啓子**さん 米国の日本研究を支える大学図書館司書

「日本の発信力を高める！」とうたう国際フォーラムを20日、横浜で開く。

米国の大学図書館の司書らによる日本研究支援の団体「北米日本研究資料調整協議会」の代表を務める。経済力の陰りと中国の台頭で研究の環境は厳しい。深刻なのが資料のデジタル化の遅れだ。

「学生はデジタル文献しか利用しなくなっています。このままでは日本研究は衰退してしまう」

津田塾大学を卒業後、女性が活躍できる場を求めて米国へ。現実には厳しく悩んだが、日本語講師になったのをきっかけに道が見えてきた。国際教育学と図書館情報学の修士号を取り、1999年、ワシントン大学東アジア図書館で日本学研究司書に。この8月、全米屈指の日本研究拠点ミシガン大学アジア図書館に移った。日本学研究の資料を購入する権限を持ち、保存と活用の全責任を負う。

米国の日本研究の基本は「敵を知る」という戦略だが、人々の日本理解を深めることは平和的な関係の基盤となると信じている。

それだけに、クールジャパンの浸透で世界が日本情報を求めているのに、好機を生かせない日本が歯がゆい。でもあきらめず、「自分にできることは何でもする」。

ストレスは多いが、インド映画を見て習い始めた「ボリウッドダンス」で発散する。故郷大阪のノリに似ていて合うそうだ。

(文・伊佐恭子 写真・遠藤真梨)

*

よこたカーターけいこ (56歳)